

○東京港防災船着場とは

- 災害時において、傷病者や医療従事者、帰宅困難者の**人員輸送**や医療・緊急物資といった**物資輸送**など、東京港における**水上輸送の拠点となる施設**である。

○計画の考え方

計画の目的

- 東京港防災船着場の着実な整備・管理と運用を図り、**災害時に機能する水上輸送体制の構築**を目的とする。

計画の性格・位置付け

- 東京港防災船着場に関して、都や区などの各主体が**整備、管理及び運用を行っていくための基本方針及び施設整備の計画**を併せ持つものである。
- 本計画は、**都及び区の地域防災計画等を基に**定めたものであり、今後これらの計画と**連携を図っていく**。



<青海客船ターミナル>



<新芝西-7(田町駅前)>

実効性を高めるための役割分担

- 各東京港防災船着場が担う機能に応じ、**整備・管理における各主体の役割分担**を提示
(例: 都は、災害拠点病院や備蓄倉庫等に近接する東京港防災船着場を整備・管理。区は、地域内輸送拠点等に近接する船着場を整備・管理。)
- **災害時の運用における各主体の基本的な役割・協力業務**を明示 ⇒ 官民の連携により円滑な水上輸送体制を構築
(都: 全体指揮、船舶の配分・確保、都が管理する東京港防災船着場の使用可否の把握等。
区: 区が管理する東京港防災船着場の使用可否の把握等。 **協定締結団体(船舶所有者等)**: 協定に基づく船舶による人や物資の輸送。)

○計画の概要

東京港防災船着場の配置計画

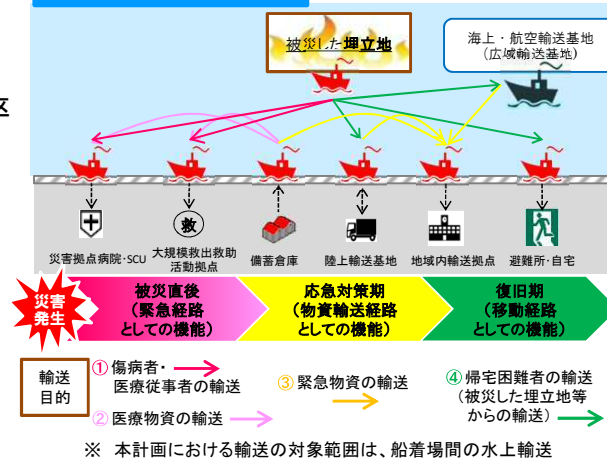
災害時における水上輸送の目的、東京沿岸部の特徴、輸送対象施設などを踏まえ、**3つの視点**により配置を検討

- ① 周りを海や運河に囲まれた**埋立地**
- ② 東京都防災会議が示した被害想定が大きい陸部の地区
- ③ 輸送対象施設に近接
 - ・ 災害拠点病院等
 - ・ 備蓄倉庫
 - ・ 広域輸送基地(陸上・航空)
 - ・ 地域内輸送拠点

- ※ 視点毎の配置が重複する場合は集約
- ※ 既存施設を可能な限り活用

▶ 東京港防災船着場は現在の**13箇所→38箇所**

水上輸送の目的(イメージ図)



有効に機能させるための方策

ハード対策

- ・ 想定される最大級の地震への**耐震対策**
- ・ 効果的に利用されるための**付帯施設**
【付帯施設メニュー】 照明施設・サイン・スロープ 等

ソフト対策

- ・ 関係区や舟運事業者等と連携・協力して「**運用マニュアル**」を整備
- ・ 関係機関(官民)の役割分担・連絡体制の確認等のため、**防災訓練の実施**
⇒ 必要に応じ、運用マニュアルの改善
- ・ 認知度向上など、災害時に有効に機能させることを目的とした**平常時利用の促進**

※ 駅や商業施設に近く利便性が高いなど、平常時利用のニーズのある東京港防災船着場については、舟運への活用を検討していく。